



皆さんががんばっているのに刺激され、日増しにマーキング活動に没頭していった。そして、メンバーで「1,000マーキング」を最初に達成し、メンバーの方から手製の記念品も頂いた。

また、自分が逆瀬川でマーキングした個体が仁川や別の河川で再捕獲された情報を聞くと「あんなに遠くへいったんだ」と感動を覚えるとともに「マーキング調査のやりがい」のようなものを感じ、ますます、マーキングが楽しくなっていた。マーキング調査の結果は「再捕獲情報」という「目に見える成果」として実感できるため「やりがい」を感じて継続できたものと思う。

そして、なんと、「ひとはく」の八木剛先生を通じてFM宝塚から出演の依頼を頂き、メンバー3人（通称：あかねちゃんクラブの3人娘）で出演し「ミヤマアカネ・マーキング調査」について熱くPRするなど、2007年の夏から秋にかけてはどっぷりとマーキング活動に足を突っ込んでいくことになった。

これらの経緯は、つぎのようになる。

年月日	活動内容
2007. 6. 24	活動計画打ち合わせ（活動に初参加）
2007. 8. 3	深夜の羽化観察会
2007. 8. 5	逆瀬川で初マーキング
2007. 8. 7	100マーキング達成
2007. 8. 27	第3回みやまあかね祭開催（宝塚ゴルフ倶楽部）
2007. 9. 1	500マーキング達成
2007. 9. 21	FM宝塚に出演 あかねちゃんクラブの活動をPR
2007. 9. 26	1,000マーキング達成
2007. 10. 14	一斉調査参加
2007. 10. 21	一斉調査参加
2007. 11. 14	最終マーキング

### 3. 目に見える具体的な成果

最終的には、2007年のわが家のマーキング調査は11月14日まで、延べ調査日数は44日間、マーキング個体数は1,447個体、再捕獲は293件となった。

あかねちゃんクラブ全体では、マーキング個体数は8,440個体、再捕獲は2,597件であった。最長生存日数は112日（カ-145、8/1～11/21）で、2006年までに確認された87日を大きく上回り、生存日数100日を超えた個体も計4例確認された。また、2006年に続き、2007年も逆瀬川、仁川から池田までの飛行（直線距離で約13km）が確認され、新たに芦屋川から仁川への飛行も確認されるなど、今後のさらなる調査により移動ルートなどが解明されれば面白いと思う。

このような情報は日常的にグループメールなどで流され、目に見える成果としてメンバーに共有された。わが家に関わったマーキング調査の成果としては、つぎのような例があった。

○W 4-1023 9月23日に宝塚市宝梅のわが家の庭にやってきてマーキングしたオス個体が、19日後の10月12日に仁川上流の甲寿橋付近で安達貴美子さんによって再捕獲された。わが家から巣立った子どもが仁川で発見されたようで、感慨深いものがあった。

○W 4-1082 10月5日11:30から12:30の間に逆瀬川のなかよし橋付近でマーキングしたメ



図1. 家族でのマーキング調査の様子  
宝塚市逆瀬川なかよし橋付近にて

ス個体が、約24時間後に、西宮市の仁川広河原で安達貴美子さんによって再捕獲された。2007年に逆瀬川～仁川間の移動が確認された個体中の最速記録です。

○カ1-815 西宮市塩瀬町の赤子谷で安達貴美さんが9月28日にマーキングされたメス個体が、10月21日に逆瀬川のなかよし橋付近で連結しているのを確認した。ミヤマアカネの発生地と繁殖地について興味深いものがあると思った。

#### 4. 家族で楽しめるミヤマアカネのマーキング活動

このようにマーキング活動に夢中になったが、活動に参加して良かったと思うことは下記のとおりで、家族それぞれの感想は図2のようであった。

① 子どもと一緒に家族みんなで楽しく活動できたこと

ミヤマアカネは見つけやすく、意外と捕獲しやすいため、子どもと一緒に活動することができた。原則、メンバーが好きな時間に自由にマーキング活動を実施しているので、家庭にとって負担にならない。ときにはメンバーと時間を合わせていっしょに実施するのも楽しいが、自分の都合に合わせ無理なく実施できた。

② 素晴らしい自然環境が身近に残っていることを実感できたこと

逆瀬川は宝塚市の住宅街を流れる川であるが、川原に降り、ミヤマアカネを追いかけることで、ミヤマアカネだけでなく様々な生き物が棲んでいる素晴らしいフィールドであることを実感することができた。子どもたちはマーキングに飽きると魚や蝶を追いかけていた。

③ 老若男女、いろんな方々と交流することができたこと

「あかねちゃんクラブ」には老若男女、様々な年齢層の方々が参加し、それぞれのペースでマーキング活動を行っている。メンバーの方々と交流することにより、みなさんのミヤマアカネに対する思い、地域の環境に対する思いを知ることができた。また、逆瀬川のすばらしい環境が色々な方の努力で守られていることを知り、清掃活動にも参加させていただいた。

安達ほか（2007）は、ミヤマアカネのマーキング調査に夢中になった理由として、キャラクターが親しみやすいこと、マーキングしたトンボは「わが子」のように感じることに、主婦には

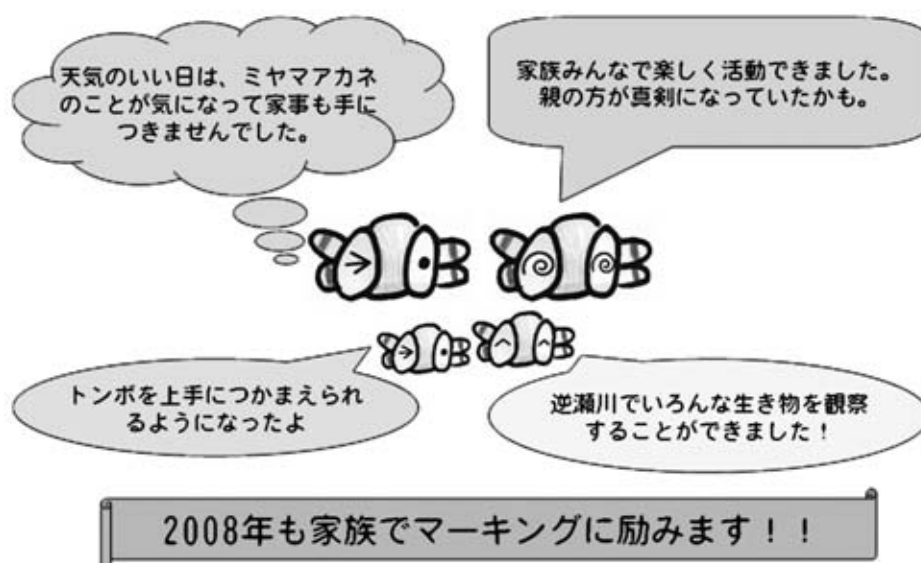


図2. マーキング調査に参加したわが家のそれぞれの感想  
上左：清水知子、上右：清水政志、下左：清水 円、下右：清水 要

都合のよい昼間の時間帯に自分のペースで調査できることなどを挙げている。これに付け加えるならば、幼い子どもでも調査に参加することができるという点を挙げておきたいと思う。

先にも述べたように、ミヤマアカネは幼い子どもにも簡単に捕まえることができる。夢中になってミヤマアカネを追いかけ、捕獲し、マーキングした個体を空に放つ。この単純な繰り返し作業に家族間の「競争心」が加わることにより、さらに家族みんなが夢中になってミヤマアカネを追いかけた。この結果として2007年度の成果（マーキング数1,447個体）となった。

また、普段は橋の上から見ていただけでは気づかないことを、実際に河原で活動することにより感じるができる。逆瀬川は自然が豊かな反面ゴミも散乱しており、マーキングのたびに目に付くゴミは拾って持ち帰った。マーキングを通じて、自然な形で環境教育を实践でき、また子どもたちも自然を大切にすることを育むことができたのではないかと思う。

ミヤマアカネの飛び交う逆瀬川は、わが家の休日の楽しいレジャーの場であるとともに学習の場でもあった。2007年のマーキングシーズンの体験は子どもたちにとっても大きな財産となったことと思う。

## 5. 今後の計画

2008年は、マーキング調査を更に充実していくための活動の一環として、あかねちゃんクラブのメンバーで西山小学校4年生の総合学習で行うミヤマアカネ・マーキングのお手伝いをしたいと考えている。マーキングデータの充実化とともに、マーキング活動を通じて、子どもたちが自分たちの身近な自然に対し理解を深めるきっかけになればと考えている。また、わが家以外にも捕虫網を持って逆瀬川に通う家族が出てきてくれればうれしいと思う。

2007年も新聞、テレビ等であかねちゃんクラブの活動が何度か紹介されたことから、一般の方からの再捕獲情報、目撃情報も数多く寄せられた。今後もマーキング調査活動をPRしていくことにより貴重な再捕獲情報が入手できると考えられるため、一般の人を対象としたマーキング調査も計画していきたい。

今後も好奇心を持ち続け、マーキング活動を続けていきたいと思っている。

## 謝 辞

マーキング活動および資料作成にあたり、ご指導いただきました兵庫県立人と自然の博物館八木剛先生、あかねちゃんクラブのみなさまに、ここに感謝の意を表します。

## 文 献

安達貴美子・河田真紀子・玉村佳子・玉村佳彦, 2007. 熱く燃えた!ミヤマアカネマーキング調査. 共生のひろば2号, 62-66.

八木 剛・足立 勲・三好百合子・藤井優恵(編), 2006. みやまあかねとすてきななかまたち. 兵庫県立人と自然の博物館, 64pp.

(注) 三校交流会: 2006年2月17日、宝塚市立西山小学校体育館で行なわれた。ミヤマアカネ・リサーチプロジェクトを実施している、宝塚市立西山小学校4年、仁川小学校5年、宝塚第一小学校4年の児童が集まり、研究発表会を行い、意見交換した。